

第6学年 外国語活動 指導案

令和2年1月29日(火) 場所: Eルーム
松江市立義務教育学校八東学園
指導者: T1 錦織栄子 T2: 久保田綾

1 単元名 We can! 2 Unit8 “What do you want to be?” “ ～”My Dreamy is Treasure.” ～宝箱に入れる、将来の夢を選ぼう～

2 単元目標

○将来就きたい職業やその理由などについて、積極的に伝え合おうとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

○どのような職業に就きたいかを尋ねたり答えたりする表現や、理由を表す表現に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

○英語と日本語での職業を表す語の成り立ちを通して、言葉の面白さに気づく。

【言語や文化に関する気づき】

3 単元の評価基準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への 慣れ親しみ	言語や文化に関する 気づき
将来就きたい職業やその理由などについて、積極的に伝え合おうとしている。	どのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりする表現や理由を表す表現に慣れ親しんでいる。	英語と日本語での職業を表す語の成り立ちを通して、言葉の面白さに気づいている。

4 語彙・表現

- ・ What do you want to be? ・ I want to be a ～. ・ I like ～. ・ I am good at ～. ・ I can ～. ・ That's good.
- ・ Good luck. ・ 職業名 ・ 動作 ・ スポーツ ・ 動物 ・ 状態、気持ち (身の回りの物・教科)

5 小中の連携や他教科との連携を意識した取り組み

導入や単元中で

- ・本校の9年生が作成した「自分の夢シート」を、導入では「ゴールの姿」として、単元中には「教材」として活用し、意欲の向上と持続につなげる。
- ・国語科「プロフェッショナルたち」と並行して学習を進めることで、自分の就きたい職業についてより思いをもって伝えられるようにする。

終末で

- ・図工で製作した立体造形物「12年後の私」の写真と「自分の夢シート」を、Unit7の「思い出シート」とともに宝箱に入れることで、目的意識を高める。

単元終了後

- ・7年生の「自分の夢シート」にメッセージを添えて返すようにし、相手意識を高める。
- ・7年生の立志式で活用できるようにする。(案)
- ・卒業を意識した9年生の3学期に宝箱を開け、英語科やホームルームで活用する。(案)

6 単元について

- ・児童について

〈個人情報保護のため省略〉

・教材について

本教材は、「将来の夢」が題材である。Let's Watch and ThinkやLet's Listenなどで、外国の子どもたちが自身の夢を語る様子を視聴したり、様々な職業の英語表現を知ったりする。また、就きたい職業だけでなく“*I like ~. / I am good at ~. / I can ~.*”など、既習表現を使って、なぜ就きたいと考えるのか理由を伝える。

本学級の児童の実態から、自分のよさや自慢できることをはっきりと口にすることに対して、躊躇したり戸惑ったりすることが考えられる。本教材では、英語で表現することを通して、自分のよさをはっきりと表現すると相手により伝わりやすくなることや、より理解してもらえることに気付かせる内容になっていると考える。また、本教材は、小中の連携や、他教科の学習を活かして、自信や思いをもって「こう言いたい。」「伝えたい。」と発展的に考えを持つことができる教材である。他にも、教材として使用する9年生が作成した「自分の夢シート」は、単に言語材料となる文章や単語を理解するだけでなく、身近に存在するモデルから「自分も」「自分なら」と考えが広がることで、児童の主体的に学ぶ意欲につながるができる。

本学園の外国語の系統性として考えたとき、本単元で学習する“*I want to be a ~.*”等の英語表現は、8年生の学習につながっていくものである。8年まで学習を深めていくにしたがい言語が豊富になり、自分について聞き手により詳しく、より分かりやすく伝えられることを実感できる基盤となる単元である。

・指導について

本単元では、自分の思い出「過去」と就きたい職業「現在と未来」を文字という形にして残すことをゴールとして単元を構成する。しかし、指導者のねらいはあくまで単元目標のとおりである。つまり、児童が自分の思いを文字にして残し、宝箱に入れることを目的として活動するが、指導者は、その過程で目的を達成するために何度も言い慣れたり聞き慣れたりし、最後に発表会をする活動を評価規準に照らし合わせて指導する。来年度の新学習指導要領実施と教科化にむけて、緩やかな移行措置として「文字として残す」活動を行うため、児童の負担にならないよう、児童によっては、指導者が聞き取りをして書いた文章をなぞる等、個別に支援を行うようにする。また、小中の連携や他教科との連携（5 参照）を取りながら、児童の意欲や関心だけでなく、思考力や表現力も発揮できるような学習展開としたい。

導入では、大単元としての現在の学習段階を確認する。また、学習活動の「目的意識」と「相手意識」「場面意識」をしっかりと再確認させる。具体的にはUnit7で「前期課程で一番の思い出を形にして残し、9年生で見ることで、自分の成長を感じられるようにするため。」Unit8で「今の自分を見つめ、夢をはっきりと持つ。そして、9年生になったとき、過去の自分を思い出し、それを胸に次のステージに進むため。」という意識を持たせる。その際、現在の9年生の「自分の夢シート」を見せることで、児童の意欲を高め、見通しを持たせたい。既習表現が多く出てくることや、よく知る9年生のリアルな「自分の夢」であることから、導入から文字を見ても、トリオで推測しながら理解と意欲を高めることができると考える。なお、トリオについてはEリーダー（English Leader）Cリーダー（Communication Leader）Mリーダー（盛り上げ Leader）と呼ばれる3人で構成する。これは、指導者の意図的なグルーピングによるものとし、各リーダーは話し合いで決定させ、主体的・対話的で深い学びのためのたてとする。

第1時から本時である第5時までは、様々な職業の言い方や、その職業を夢と考える理由について、音声を聞いたり映像を見たりして理解する。聞き慣れる、言い慣れる活動を行いながら、自分自身の就きたい職業やその理由について想起できるような発問や、やり取りをする。最初は、指導者と児童のやり取りを中心に行うが、主体的に学ぶ力を発揮できるよう、意欲・関心が高まる教材やゲーム、先に述べた意図的なグルーピングによって児童相互のやり取りを活発化させたい。具体的な例として、第1時では「We can! 2」の巻末にある「職業カード」を使用してゲームを行うが、第2時では、児童が国語科や図工で調べ学習をした職業のカードを制作し、それを使ってゲームを行う。34人の友達の誰かが就きたい職業として、想像しながら活動する児童の姿が予想される。自分は興味があなくても、友達の夢となっている職業という意識をもって活動することで、児童にとって、たくさんの単語を意欲的に言い慣れたり聞き慣れたりすることにつながると考える。

また、第4時から第5時では、9年生の「自分の夢シート」を活用し、「他のトリオにクイズを出す」という「聞き慣れること・言い慣れること」の目的のために、まず、自分たちが「読んで理解する」という活動を行う。この時間までに、シートに書かれている表現を言い慣れたり・聞き慣れたりしながら、見慣れていくようにする。これまでの活動を生かしながら、文字を見て友達とともに理解できる楽しさを味わい、文字に対する興味や関心につなげたい。また、9年生の英語表現をお手本にして、次の活動「Card Talk」を行う。今度は一人一人がカードを使いながら、自分の得意なことやできることを友達に伝え、自信をもって将来の夢を語れるようにしたい。既習表現だけでなく、児童の「表現したい。」という気持ちを大切に、指導者が支援を行うようにする。英語で

の言い方について児童から質問があった場合、英語表現をすぐに教えるのではなく、簡単な表現や単語に言い換えることができないか、一緒に考えたり、辞書を引いている姿を見せたりすることで、今後の学びにつながっていくようにしたい。なお、自分が興味を持っている職業についてのみ、書き写す活動も取り入れ、新学習指導要領の外国語活動・外国語の言語活動の例として挙げられている、「相手に（今回は自分に）伝えるなどの目的を持って身近で簡単な事柄について音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す活動」を意識させたい。

第6時と第7時では、「自分の就きたい職業とその理由」をトリオだけでなく様々な友達と、尋ねたり答えたりする活動を行うことで、自分の夢と友達の夢についてより深く交流しながら理解する時間としたい。スピーチのように、決まった順序で、決まった内容を伝えあうのではなく、例えば相手が “I want to be a baseball player.” と話したら、“That’s great!” など自分の感想を伝えるように促す。児童によっては “You can play baseball well, right?” など、確認や承認の言い方も伝えて自然な会話をするように伝える。また、伝えあうことで友達をお手本にし「自分の就きたい職業とその理由」をはっきりと表現できるようにしたい。時間外で、宝箱に入れる「自分の夢シート」を書き、最終となる第8時でお互いに読みあう時間をとる。

宝箱に入れるシートが、文字として時を超え、三年後の自分のもとに届く時、自分の成長を自分で感じられ、前期課程における「一番の思い出」や「夢（就きたい職業）」を友達と英語で語り合った温かい思い出を胸に、卒業していくことを願っている。

7 単元計画（8時間）

時	目標と主な活動	評価			
		コ	慣	気	
1	<p>○単元のゴールを知ったり、職業を表す語を聞いて成り立ちに気づいたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9年生の「自分の夢シート」を見て、単元のゴールを知る。 ・Card Game1（We can!2にある職業） ・Let’s Watch and Think1 p.59（Anastasiaのみ） ・Let’s Think and Write （singerのように語尾がerの単語を探したり、istがあることに気づいたりしながらなぞる。） 			◎	<p>・英語と日本語での職業を表す語の成り立ちを通して、言葉の面白さに気づいている。</p> <p>【気づき】<観察・振り返りカード></p>
2	<p>○職業についてまとまった話を聞いて理解したり、就きたい職業を言ったりしようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let’s Watch and Think2 p.60 ・Card Game2（児童が興味を持っている職業のカード） ・Let’s Talk and Write （どのような職業に就きたいかを尋ねる表現を話したりなぞったりする。） 			◎	<p>・職業を表す表現や、どのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しんでいる。</p> <p>【慣れ親しみ】<観察・誌面></p>
3	<p>○将来の夢についての話を聞いて、就きたい職業やその理由を理解しようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let’s Watch and Think3 p.60 ・Card Game3 （Card Game2のカードと9年生がなりたい職業のカード） ・Let’s Talk and Write （どのような職業に就きたいかを答える表現を話したりなぞったりする。） 			◎	<p>・職業を表す表現や、どのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しんでいる。</p> <p>【慣れ親しみ】<観察・誌面></p>
4	<p>○どんな職業に就きたいかを尋ねたり答えたりする表現や、その理由についての表現（好き・できる・得意など）に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Let’s Listen p61 ・Card Game3 （Card Game2のカードと9年生がなりたい職業のカード） ・Sheet Quiz（9年生の「自分の夢シート」を使って） ・Let’s Talk and Write （自分の好きなことやできることを話したりなぞったりする。） 			◎	<p>・どのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりする表現や、その理由を表す表現（好き・できる・得意など）に慣れ親しんでいる。</p> <p>【慣れ親しみ】 <観察・誌面・振り返り></p>

5 本 時	<p>○どんな職業に就きたいかを尋ねたり答えたりする表現や、その理由についての表現（したい）に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Sheet Quiz（9年生の「自分の夢シート」を使って） ・なりきり Card Talk ・Let's Talk and Write （自分の得意なことを話したりなぞったりする。） 	◎	<p>・どのような職業に就きたいかを尋ねたり、答えたりする表現や、その理由を表す表現（したい）に慣れ親しんでいる。</p> <p>【慣れ親しみ】 <観察・振り返りシート></p>
6	<p>○興味がある職業や就きたい職業とその理由について、伝え合おうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Sheet Quiz（9年生の「自分の夢シート」を使って） ・Card Talk ・Let's Talk and Write （気持ちや楽しんでいることなど、自分が伝えたい表現を選んで、話したりなぞったりする。） 	◎	<p>・自分の興味がある職業や就きたい職業と、その理由について伝え合おうとする。</p> <p>【コミュニケーション】 <観察・振り返り></p>
7	<p>○「自分の夢シート」に書く内容を友達とアドバイスし合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Sheet Talk（9年生の「自分の夢シート」を使って） ・Let's Talk and Advice （「自分の夢シート」に書く表現を使ってやり取りしながら、アドバイスし合う。） 	◎	<p>・自分の伝えたいことが伝わるように、工夫しながら表現しようとしている。</p> <p>【コミュニケーション】 <観察・振り返り></p>
時 間 外	「自分の夢シート」作成		
8	<p>○「自分の夢」について話したり聞いたりし、エールを送る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「将来の夢発表会」をする。 ・ 	◎	<p>・他者に配慮しながら話したり聞いたり、しようとしている。</p> <p>【コミュニケーション】 <観察・振り返りシート></p>

8 本時の学習

(1) 目標

○どんな職業に就きたいかを尋ねたり答えたりする表現や、その理由についての表現に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

(2) 展開 本時5/8

時	児童の活動	T1の支援	T2の支援	準備物
3	○Greeting Time ○単元のゴールを確認し、本時のめあてを知る。 就きたい職業とその理由について、伝え合おう。	・意欲的、主体的に活動しようとしている児童をほめ、失敗を恐れず活動する雰囲気を作る。 ・単元の流れと見通しを意識できよう、単元のゴールを確認し、前時の振り返りをする。	・個にあった指導のため、机間支援しながら個別に英語で質問する。	
	○Practice Time ①Order Words ・文章を見て、間違いを探す。 ②Small Talk ・前時のT1とT2の会話を想起し友達と話す。 ③Chant ・Card Talkで使用するカードを使ってチャンツする。	・本時に必要な文章表現や単語に主体的に言い慣れたり聞き慣れたり見慣れたりするために、様々な工夫する。 ①音声聞きながら文章の順番を考慮することができるよう、全体でチャンツしながら代表児童に並べさせる。 ②9年生の「自分の夢シート」に出てくる単語や表現を意図的に使う。 ③児童の集中力を高めるため、個別に指名し確認する。	①児童の不安感に寄り添うために、間違ってもよいことを伝えたり、要望があればヒントを伝えたりする。	
10	○Sheet Quiz(トリオ対トリオで行う) ①前時の活動を想起し確認する。 ・Eリーダーが一文ずつおさえ3人で読む。 ・職業を考える。 ・正解を見る。 ②一人ずつ読む。 ・順番に一人一文読む。 ③他のトリオにクイズを出す。 ・一人一文を読む。 ・聞いていたトリオが、何の職業かあてる。	・前時を想起させ、簡単な英語を使って、活動のやり方を説明する。どの子にも分かるように、短い言葉で掲示する。 ・別のトリオにクイズを出すために問題を読む、というこの活動の目的をしっかりと意識させる。	・机間支援しながら、英語表現の個別指導を行う。 ・児童の反応する力を伸ばすため、児童によっては、その場にあった簡単な質問をする。	9年生の「自分の夢シート」
10	○なりきりCard Talk ・カードに合った理由を考えて伝える。 A/B) What do you want to be? C) カードをめくって I want to be a (). A/B) Why? C) ★I am good at (). I like (). I can (). (★は必ず使う。☆はできたら使う。) So, I want to be a (). AB) That's great! Good luck! C) Thank you! ※3人で役割をチェンジして3回行う。	・友達の夢発表のとき、推測して聞くことができるよう、めくったカードのどの職業にも就きたいと答え、その理由を考えるよう伝える。 ・活動をより活発にするために、反応する言葉を伝えている児童や、自分で考えて話している児童、他者に配慮している児童など、よいモデルを紹介する。 ・不安を感じている児童には、ほめ言葉や励ましの言葉で、意欲を持たせるようにする。	・活動のやり方が分かりにくい児童に個別に説明する。 ・もっと英語表現を話したいと感じている児童には、他者に配慮するために、できるだけ簡単に聞き覚えのある英語表現に言い換えることはできないか、考えさせる。	学級の職業カード
15	どのような職業に就きたいかを尋ねたり答えたりする表現や、その理由についての表現(～が得意)に慣れ親しんでいる。【慣れ親しみ】			ワークシート
5	○Let's Talk and Write (ワークシート) ・ワークシートの文を書きなぞったり、書き写したりする。 I am good at ().	・書き写すことが苦手な児童には、うすく単語を書いて、なぞるように促す。	・早くできた子には、選んだ職業について質問したり、アルファベットを言わせたりする。	
2	○振り返り	・活動中に意欲をもって活動した例を挙げて全体に広げる。	・活動中に、英語表現や会話でよかった例を挙げて全体に広げる。	

評価規準 <評価の方法>

・就きたい職業やその理由について、伝え合っている。

【外国語への慣れ親しみ】 <観察・振り返り>